

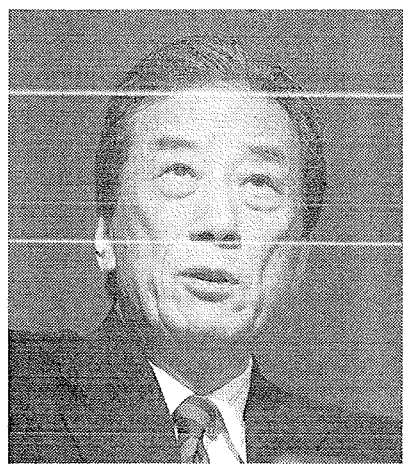
■ 基調講演 「グローバル時代、日本の課題」

91年にソ連が崩壊し、二つに分かれていた世界は一つの経済圏になりました。翌年にはインターネットのワールドワイドウェブがスタート。以来、急速に「グローバル化」が進んでいます。企業にも個人にも、「国籍」の意味は薄れ、「何をやるか」が問題となる。情報は瞬時に世界中で共有され、個人でも世界に情報発信することが可能になりました。

弱みを強みへ、今がチャンス

こうした時代に、日本は海外からどう見えるでしょうか。日本が何を考え、何をしようとしているか、世界に伝わっているのでしょうか。おおいに疑問です。

輸出で世界を席巻し、ものづくりのお手本となった日本の製造業は、今や世界でのシェアをどんどん失っています。「日本の技術は最高」とエンジニアはい



政策研究大学院大学 教授
黒川 清 氏

1967年東京大学大学院研究科修了。医学博士。カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部内科教授、東京大学医学部第一内科教授、東海大学教授、医学部長、日本学術会議会長、内閣特別顧問等を経て、06年から現職。主な著書に『世界級キャリアのつくり方』『イノベーション思考法』等多数。ブログ www.kiyoshikurokawa.com

いますが、顧客が買わなければ意味がない。こんな日本の製造業を「ガラパゴス化した」と呼ぶ人がいます。ダーウィンが紹介した、広い世界から孤立した諸島群の中でだけ特異な進化を続け、外では競争できないガラパゴスの生物のよう

しい、これが日本の現状です。

国。巨大マーケットが海外に広がっている。わが国が、この分野に積極的に投資し、英知あるグローバル戦略をとれば、今後「エネルギー」が輸出産業の柱となり、世界に貢献できるのです。

と。より大きなシステムや構想力で勝負するグローバル世界の潮流とは無関係に、独自の細かな技術にこだわり続けると、「部屋」になってしまつたのです。

今、必要なのは世界を変える本物の「イノベーション」。これは、単なる発明、技術革新、制度改革ではありません。それらをシズ（種）として、世界の新しい社会的価値、経済的価値を創造する

ルギーは何か。核利用には拡散、廃棄、テロ等の可能性も懸念される以上、中長期的には「太陽」しかありません。一方、バイオ燃料の問題もあって、世界は深刻な食糧危機に陥りつつあります。そこで、改めて日本の強みを考えて見

また、日本の農産物の質の高さは世界が認めています。埼玉県の面積に匹敵する休耕農地のことを考えてみれば、農業政策を大きく転換し、経営・生産・流通のシステムを見直し、農業は間違いなく成長産業、特にアジアへの輸出と地方活性化の柱になります。「野菜工場」だって日本各地でもっとできるでしょう。

国も企業も、視線があまりに内向きで、守り一辺倒のように思えてなりません。それであまり発信もせず、なぜかわた

では、日本がするべきこと、とるべき道は何でしょうか。一國が独立を保つために不可欠なもの、常に国際紛争の火種となるものは、いままでもなく食料とエネルギーです。ところが、日本の食料自給率は39%、エネルギー自給率は、わずか一ケタ。ここにわが国の弱みがあります。

私は、あえて次のように提案します。日本は、本物のイノベーションで、2030年にはエネルギーと食料の純輸出を目標せよ。これを内外に宣言し、戦略的な投資、制度改革を直ちに始めよ、と。安倍元総理には50年までにと言いました。が、ここ1年の世界の動きを見ると、日本が真剣に全力で取り組めば30年には達成できると考えるようになりました。

そんなのハナから無理と考えるベシムストばかりでは日本は没落するだけでしょう。今こそチャンスなのです。1年前には誰も予想さえしなかったアメリカの新大統領が生まれる。自らの能力とチーム作り、そしてITを駆使した新しい選挙戦略でこれを実現した、あのオバマ氏が言っているではありませんか。「Yes, Together, We Can.」

しかし、状況は変わってきてきました。化石燃料に頼る成長の限界は、誰の目にも明らかです。19世紀は石炭の時代、20世紀は石油の時代、では21世紀のエネ

エンジンたちの言う通り、太陽光発電やクリーン自動車などの新エネルギー技術、日本は世界最高レベルです。そして、それらの技術を日本より必要としているのは、発展途上の中国（インド）、その他の諸外

Together, We Can.」